

■長く使えるものを選ぶ

今、使い捨てではなく長く使える商品が静かなブームになっています。故障しにくいオイルヒーター、壊れても部品を交換して長く使える掃除機(いずれも外国製)、長く使える腕時計など寿命の長い商品が、着実に売れているそうです。

これらの中から今回は、長持ち腕時計について誕生の経緯などを調べてみました。

長持ち腕時計の名前は「ザ・シチズン」。1995年シチズン時計が開発したものです。開発の動機は、時計の使い捨て状況や価格競争から脱皮すること「一生涯愛用される」という腕時計のあり方を見つめなおすこと、さらにお客様の声を製品づくりに生かすことだったと言います。

ザ・シチズンは、シチズン時計で年間3億2千万個の大量に生産されているクォーツ時計と違って、その生産量は年間わずか1千個。すべて熟達したマイスターの手作業で組み上げられているといえます。

また、一生涯使ってもらうために、メカニカの部分に注入する変質しない油を開発したり、デュラテクト加工で擦り傷から時計の本体を守り、素材の美しさを長期間保ったり、さらに修理部分を長期間保有したりするなどをして、10年間の無償保証や保証期間内での3回の無料点検などを実現したということです。ちなみにこの腕時計の値段は、10万円から25万円。若い人から年輩の方向けに10のモデルが用意されています。

シチズン時計の長持ち腕時計に影響されて、同業他社やスイスでも長期保証するという動きがみられるということです。

これまで私たちは、「もったいない」、「ものを大事にする」というような言葉を忘れかけていますが、忘れていいのは「使い捨て」という言葉のように思います。「もったいない」の言葉を生活の中に再び蘇えさせると同時に、買い物をする場合「長く使えるものを選ぶ」こともグリーンコンシューマーが心掛けるべき点ではないでしょうか。